

甲南大学の進化型理系構想

甲南大学では現在、「進化型理系構想」の実現に向け、構想の具体化が着々と進行中です。脱炭素社会とデータサイエンスによるAI社会が構築されようとしている今、優れた理系人材の確保は、国にとっても企業にとっても喫緊の課題となっています。そんな中で、これまでの正統派理系の良さを継承しながら、新しい魅力を発信していく甲南大学。構想の詳細について中井学長が語ります。

甲南大学理系学部の良さを見える化していく新しい施策を

今、社会はGX（グリーン・トランスフォーメーション）の実現やAIの実装化へと大きく動いています。国でもこれらの分野の産業と人材の育成に向けて本腰を入れています。優れた理系人材の育成がかつてないほど望まれている時代です。そういう時代の要請に応えるべく、甲南大学では「進化型理系構想」をスタートさせました。

本学の理系学部の歴史は1951年の開学時に設置された文理学部にまでさかのぼります。文理学部は1957年に文学部と理学部に分かれ、その後、幾度かの学部・学科改編を経ながらも、基礎科学の領域で存在感を示し、現在の3学部5学科体制となりました。

本学の理系学部の特性は、開学以来の伝統が生み出す確かな教育研究力が基盤になりました。

ります。他大学から来られた先生方の感想としで、「甲南の学生は実験がうまい」という声もよく聞きます。再現と観察により理論を裏づける実験は、科学の基本中の基本です。本学の学生はそういうことだと思います。また、教育方針でも、創立者・平生鉢三郎の精神が脈々と継承されており、人間味と感性の豊かな研究者・企業人を輩出しています。

とはいっても、現代社会が求める分野において、本学の理系学部のボテンシャルをより一層發揮できる面はまだまだ残されています。「進化型理系構想」では、理系学部の伝統的な良さをより強化しながら、時代の一いつに対応する新しい基軸としての学科の新設・改組や教育改革などをを行い、その力を「見える化」していきます。

新学科設立・改組に加え スペシャリスト育成を強化

「研究開発リーダー養成プログラム」の導入を予定しています。

「進化型理系構想」では、より練度の高い理系スペシャリストの養成をめざして、大学院への進学率を30%まで引きあげるという目標を掲げています。そのための大学院改組として、2026年に「自然科学研究科」に「環境・エネルギー工学科専攻※」を新設し、2028年には「自然科学研究科」の「知能情報学専攻」を「知能情報学研究科※」として独立させます。さらに、魅力のあるキャリア選択を後押しします。また、先端医療技術の研究拠点が集まるポートアイランドのキャンパスという地の利を生かして、産学連携の

究する「社会実装型」の2つのテーマをもつラボで、AIで動く未来社会を体感し、学びを深めることができる斬新な研究所です。

新理系棟で学部・学科を超えた交流と学びの場に

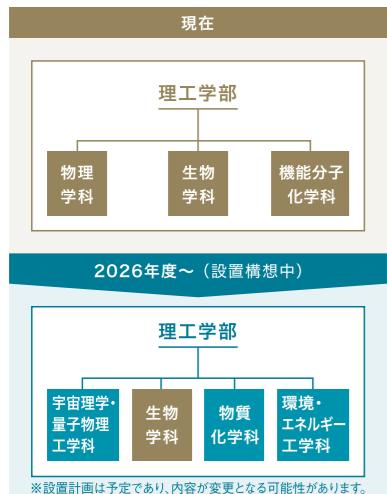
2027年には、岡本キャンパスに新しい理系棟が竣工予定です。理系の学生は研究室にこもつてしまいがち、といわれてきました。新棟は、学部や学科を超えて研究成果などを分か



岡本キャンパス西・北 校地エリアが
サイエンスゾーンとして進化

2027年竣工予定の 新理系棟(バースイメージ図)

※構想中のため、今後情報が変更になる可能性があります。



※設置計画は予定であり、内容が変更となる可能性があります。

2027年には、岡本キャンパスに新しい理系棟が竣工予定です。理系の学生は研究室にこもつてしまいがち、といわれてきました。新棟は、学部や学科を超えて研究成果などを分か

いています。今回の構想も、そういった「甲南らしさ」を伸ばしながら、社会性と共感性の高い理系人材を育成していくことを基本理念としています。

今春はグローバル教養学環(STAGE)も新設され、甲南大学はこれから大きく変わっていくこうとしています。「進化型理系構想」は、そういった変革の一つです。これからも、11万人に迫る数の卒業生のみなさまにも支えられている甲南大学を、ますます発展させるべく励んでいきます。



甲南大学長
中井 伊都子



進化型理系構想のキーワードは脱炭素社会、データサイエンス社会に対応した「グリーン」「デジタル」「マテリアル」です。

学科の構成が大きく変わるのが理工学部です。2026年に「環境・エネルギー工学科※」を新設し、さらに、「物理学科」を「宇宙物理学・量子物理学科※」に、また、「機能分子化学科」を「物質化学科※」に改組し、「生物学科」を含めた4学科体制に進化します。新学科では「科学で持続可能な地球の未来を創る」を基本理念に、太陽光発電、バッテリー、水素、資源・カーボンニュートラルなどの材料科学について研究し、これらの環境やエネルギー産業の分野で活躍する人材を育成します。また、4学科それぞれの専門領域で、理学(基礎)+工学(応用)の教育研究を一層強化します。

知能情報学部では今年、「甲南デジタルツイーン研究所」を設立しました。サイバーフィジカル空間でロボットなどを研究する「未来創造型」と、デジタル技術による交通や輸送の進化を研究強化します。

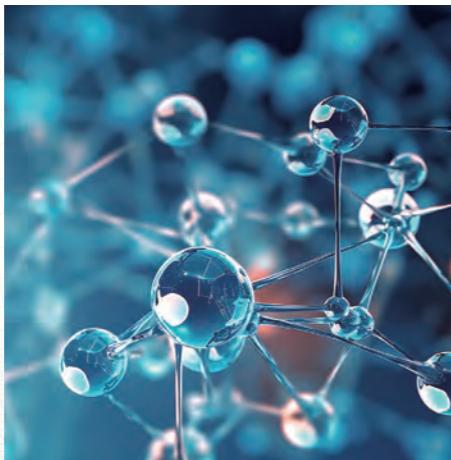
ち合い、互いを高め合えるステージにしてほしいという思いから生まれたものです。理系、文系にかかわらず、さまざまな価値観をもつ人ととかわり合いながら生きていくという、実社会で生きかせる体験もできるのではないか、そういう意味では人物教育にもつながると思います。これは特に、ミディアムサイズの総合大学だからこそ成立する強みの一つではないかと思います。理系、文系に共通して、本学の学生は「コミュニケーション能力が高く、ものごとを俯瞰的にとらえる力のある人が多い」という評価をいただ

「持続可能な社会の実現」「宇宙の探究」「新しいエネルギー開発」「AI・データサイエンス」「ナノバイオテクノロジー」

3学部6学科 進化型 理系構想が動き出す

Renewal 2026年4月設置構想中* 物質化学科

理学と工学の垣根を超えて、物質化学で未来を拓く
理学と工学の両面で基礎力を備え、持続可能な社会の実現や新しい技術革新を担う物質を創造・探究できる人材を育成する。



Renewal 2026年4月設置構想中* 宇宙理学・量子物理工学科



生物学科

生命科学の幅広い領域を探究、サステイナブルな社会を実現



基礎となる生命への理解を、遺伝子、タンパク質から細胞、個体、生態、進化に至る幅広い領域から深め、生物学を応用できる理系素養と技術をもつ人材を育成する。

理工学部

進化ポイント

- POINT 1 理工学部のリソースを生かし、特色と強みをより鮮明に打ち出した学科再編
- POINT 2 成長分野を中心とした工学・応用分野を強化
- POINT 3 大学院の充実化による6か年一貫教育で、研究力の向上と高度理系人材を育成

NEW

環境・エネルギー工学科

2026年4月設置構想中*

エネルギー・資源・環境を科学して、グリーンな未来を切り開く



太陽光発電、バッテリー、水素エネルギー、資源リサイクル、未利用資源の有効活用など、グリーン社会の実現に貢献する産業分野における技術者・研究者として先導的な役割を担える人材を育成する。

*設置計画は予定であり、内容が変更となる可能性があります。

フロンティアサイエンス学部



生命化学科

化学と生物学を融合したナノバイオの視点から新たな未来を創造する

生物・化学・物理が融合した生命化学を追究し、既存の枠を超えた研究と教育から、人や社会に貢献できる人材を育成する。

進化ポイント

△2026年4月始動△

POINT 1 研究職をめざす先進科学コース
創薬、医療、先端材料、食品・化粧品の4つのサブコース**を設置

POINT 2 研究開発リーダー養成プログラム*新設
神戸医療産業都市を舞台に学ぶ

*名称は仮称であり、変更となる可能性があります。

知能情報学部



知能情報学科

AI時代の技術や知識を追究し未来の情報化社会を創造する
AI+データサイエンスを中心とした6コースの学びの組み合わせから、基礎から応用までを分野横断的に学ぶことで、先端技術者のみならず、AI時代に必要とされる“情報学分野横断型ジェネラリスト”を養成する。

進化ポイント

△2024年4月△
甲南デジタルツイン*研究所設立

AI・VR・ロボットの研究をおこなう
未来創造型研究

配達技術等の
ロジスティックスに関する
社会実型研究

甲南デジタルツイン*研究所

*デジタルツイン…現実の世界から収集したデータを、まるで双子のようにコンピュータ上で再現する技術。